

「高齢者の地方移住」意識調査
「地方移住したいと思わない」が 83.3%
日本創生会議公表の「移住候補地」、
人気 No.1 は沖縄県宮古島市、No.2 は石川県金沢市

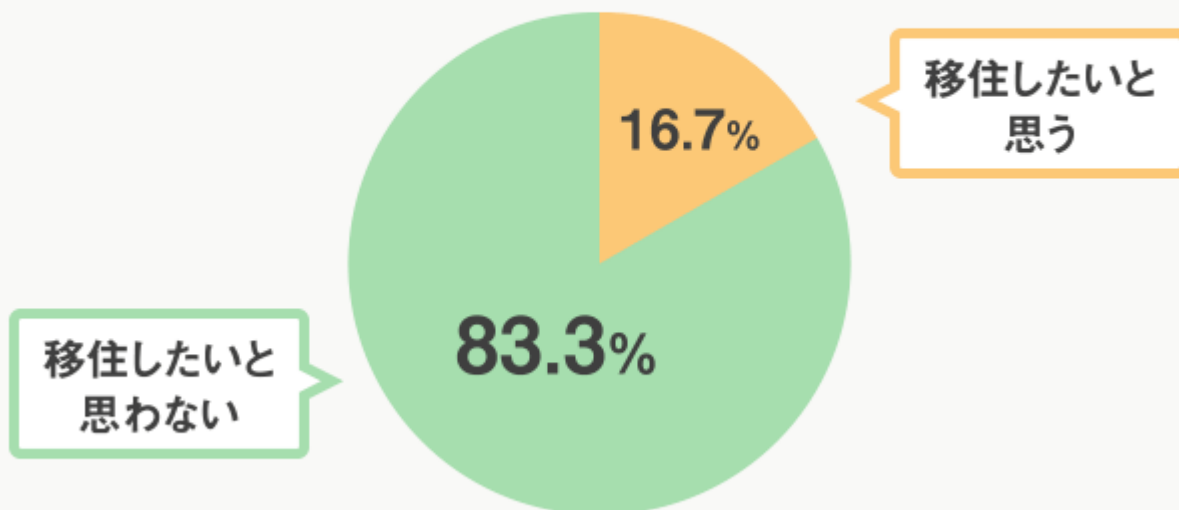
この度、株式会社オウチーノ(本社:東京都港区/代表取締役社長兼 CEO:井端純一/証券コード:6084/以下オウチーノ)は、首都圏在住の65歳以上の男女522名を対象に、「高齢者の地方移住」に関するアンケート調査を実施した。オウチーノは、民間有識者で構成する、日本創生会議(座長:増田寛也 元総務大臣)が2015年6月5日に公表した「東京圏高齢化危機回避戦略」に含まれる「高齢者の地方移住」に着目。すでに医療、介護のサービスで、他の地域から高齢者の移住を受け入れる余力があるとする41の移住候補地も公表され具体性を帯びてきているが、当事者である高齢者たちは、この提言に対してどのような反応を見せるのだろうか。

【記事 URL】 <http://www.o-uccino.jp/article/archive/trend/20150630-ijyu/>

1. 「地方移住したいと思わない」が 83.3%

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に在住の65歳以上の男女にアンケート

Q.「高齢者の地方移住」^{※1}の提言を受けて、
あなたは当事者として、地方に移住したいと思いますか?



※1 民間有識者で構成する日本創成会議が2015年6月4日に公表した「東京圏高齢化危機回避戦略」

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の1都3県の高齢化問題が深刻になっている。日本創生会議がまとめた資料によると、今後10年で介護需要が45%増える一方、約13万人分の介護施設が不足すると推定される。それを解決させるため、日本創生会議が公表した対策の1つが「高齢者の地方移住」だ。実際、当事者はこの「地方移住」についてどう考えているのだろうか。

まず、『高齢者の地方移住』の提言を受けて、「あなたは当事者として、地方に移住したいと思いますか？」と聞いたところ、「移住したいと思う」は16.7%。「移住したいと思わない」は83.3%だった。「移住したいと思わない」を選択した理由をみると、「旅行はよくても住むのはまた別だから」「実際に移住して初めて分かることが多いと思うので不安」といった意見の他、「東京以外考えられない」「移住する気はない」と、この地域移住に対して眉をひそめる様子もうかがえた。

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。■

株式会社 オウチーノ(ブランドマーケティング Div./清水) 〒105-0021 東京都港区東新橋 2-14-1 コモディオ汐留
<TEL:03(5776)1746 FAX:03(5776)1747 E-MAIL:press@o-uccino.jp>

2. 日本創生会議公表の「移住候補地」ランキング、 第1位は沖縄県宮古島市、第2位は石川県金沢市

日本創生会議は、医療、介護のサービスで、他の地域から高齢者の移住を受け入れる余力があるとする41地域も提示している。万が一、この提言にある程度の強制力が加わり、高齢者が地方へ移住しなくてはならなくなった場合、当事者は、移住候補地からどこを選ぶのだろうか？

65歳以上の当事者が選んだ、地方移住先ランキング			
Q.万が一、「高齢者の地方移住」にある程度の強制力が加わり、地方へ移住しなくてはならなくなった場合、移住候補地(移住候補予定地)41エリアからどこを選びますか？			
(複数回答可)			
1位	沖縄県宮古島市	37票	
2位	石川県金沢市	29票	
3位	岡山県岡山市	26票	
4位	和歌山県和歌山市	23票	
5位	愛媛県松山市	22票	
6位	大分県別府市	19票	
7位	長崎県長崎市	16票	
8位	高知県高知市	14票	
8位	愛媛県高松市	14票	
10位	北海道函館市	12票	
10位	山口県下関市	12票	
10位	徳島県徳島市	12票	
13位	福岡県北九州市 11票	21位	愛媛県新居浜市 8票
13位	富山県富山市 11票	21位	岩手県盛岡市 8票
13位	島根県松江市 11票	25位	福井県福井市 7票
13位	熊本県熊本市 11票	25位	新潟県上越市 7票
13位	京都府福知山市 11票	25位	富山県高岡市 7票
13位	鹿児島県鹿児島市 11票	25位	熊本県八代市 7票
19位	山形県山形市 10票	25位	秋田県秋田市 7票
20位	青森県弘前市 9票	30位	山口県山口市 6票
21位	鳥取県米子市 8票	30位	香川県坂出市 6票
21位	佐賀県鳥栖市 8票	32位	北海道帯広市 5票
		32位	北海道室蘭市 5票
		32位	北海道釧路市 5票
		32位	鳥取県鳥取市 5票
		32位	香川県三豊市 5票
		37位	山口県宇部市 4票
		37位	福岡県大牟田市 4票
		37位	青森県青森市 4票
		40位	北海道北見市 3票
		41位	北海道旭川市 2票

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。■

株式会社 オウチーノ(ブランドマーケティング Div./清水) 〒105-0021 東京都港区東新橋 2-14-1 コモディオ汐留
 <TEL:03(5776)1746 FAX:03(5776)1747 E-MAIL:press@o-uccino.jp>

結果、最も多くの人を選んだのは、沖縄県宮古島市で37票だった。第2位は石川県金沢市で29票、第3位は岡山県岡山市で26票、第4位は和歌山県和歌山市で23票、第5位は愛媛県松山市で22票だった。上位の地域を選択した理由を聞くと「気候風土とも良いと思うから」「災害が少ないから」という回答が過半数を占め、暮らしやすさをとる高齢者が多い傾向となった。

一方、ランキング下位を見ると、青森県青森市が4票、北海道北見市が3票、北海道旭川市が2票と、寒冷地域は不人気だった。また「生まれ故郷なので自分は問題ないが、妻はその地に思い入れがないので移住したがるまいだろう」という声も聞かれた。やはり「地方移住」は、自分1人では片づけられない問題であることも、ハードルを上げているのかもしれない。

3. 「何が解決されても地方移住は考えられない」は、43.3%

最初の質問で、「移住したいと思わない」と回答した83.3%の方に、「何が解決すれば地方移住を考えられますか」と質問した。最も多かった回答が「何が解決されても地方移住は考えられない」で43.3%であった。続いて、「医療や介護施設が充実しているなら地方移住を考える」が26.3%、「住居費などお金の問題が解決されるなら地方移住を考える」が18.8%、「友人・知人と一緒に地方移住できるなら考える」が11.6%だった。将来訪れるであろう、首都圏の介護施設不足の回避策として「高齢者の地方移住」は合理的な考え方なのかもしれないが、当事者たちの理解を得るにはまだまだ課題が多そうだ。

【記事 URL】 <http://www.o-uccino.jp/article/archive/trend/20150630-ijyu/>